



マングローブの基本知識



「マングローブ」とは樹木の種類を指すのではなく、熱帯や亜熱帯地域の河口汽水域（淡水と海水が混在している水域）に生育する森林の総称のこと。世界各国に生育するマングローブの種類は約100種類とされています。



マングローブは種から成木に成長するまでには約5年かかります。
マングローブの根は幹を支え、満潮時には呼吸器官としても機能しますが、
同時に、打ち寄せる波が陸地を浸食するのを抑える役割も果たします。



ある研究者の報告によれば、沖合いで1mの高さの波が岸に向かって進む場合、マングローブ林がなければ堤防に到達する波の高さは75cmですが、岸から1.5kmまでの全域にわたってマングローブが植えられている場合、2～5cmにまで波の高さを抑えることができるといわれています。



マングローブは防災効果があるだけでなく、周辺の生態系を豊かにします。
魚やエビやカニなどの魚介類は根元に集まり、そこを住処として繁殖し、
ミツバチは蜜を集めにマングローブの花の周りを飛び交います。



人々は蜂蜜を採取し、マングローブに集まる魚介類を捕獲して生計を立てています。このように、マングローブは多方面にわたって自然環境と住民の生活向上に大きく貢献しています。